

【地震災害に思う】

宮城県栗原市と岩手県奥州市で十四日朝、最大震度六強を観測した「岩手・宮城内陸地震」は大規模な土砂崩れなどで被害が拡大し、死者は九人、行方不明が十三人となっており、重軽傷は計二百五十人を超えました。（六月一六日時点）

先月の中国四川省の大地震被害と自然の大災害が続いています。それにしても、自然の大きな力の前ではいかに人間の力など小さいものかがよく分かります。

「災害はいつ起こるか分からない」と改めて実感しています。

人災は、人間の心構えなどで、いくらでも防げるが、天災だけは、いくら気を付けていても防ぎようがありません。

明日のことなど、誰にもわかりません。今こうやって、当たり前前に生活出来ていることを、当たり前とは思わず、日々何事もないことに感謝しながら、災害が来たとき、被害を最小限に抑えられるように、日々の備えや知識を持ち、より一層の心がけをしなければ、と思います。

そして過去、阪神・淡路大震災や新潟県中越地震など、まだ記憶に新しいものも多くあると思います。

これらの中で発生した、「助け合いの精神、ボランティアの組織」など、教訓として地域にしっかり根付かせる必要があると考えます。

